

6月に入ってコロナワクチンに関する情報が急速に増えてきました。
直ちに削除される情報も非常に多いのですが、InDeepの貴重な情報の抜粋です。

「これはその時代すべての女性を不妊にする」- CDCにワクチン接種の即時の停止
を要請した科学者の声明 投稿日: 2021年5月13日 更新日: 2021年5月14日 InDeep

ファイザー社元副社長の緊急申請書より

ワクチン接種は、SARS-CoV-2 (新型コロナウイルス)のスパイクタンパク質に対する抗体を産生すると予想される。しかし、スパイクタンパク質にはシンシチンという相同タンパク質が含まれており、これはヒトなどの哺乳類の胎盤の形成に不可欠なものだ。SARS-CoV-2に対するワクチンは、絶対にそうなるというわけではないにしても、このシンシチンに対する免疫反応を引き起こす可能性を除外できない。

これは、ワクチン接種をした女性の「恒久的な不妊」につながる可能性がある。

これは、[こちらの過去記事](#)の後半に載せています。

上の記事は今年のお正月過ぎの記事で、つまり、その頃にはこのことを知っていたことになるのですが、ファイザー元副社長の言う、「絶対にそうなるというわけではないにしても」

という言葉のほうを強く受けていて、私は、「そうだったり、ならなかったり」ということなのかな、というように呑気に考えていました。しかし最近、アメリカの科学者の方が、CDCの予防接種実施諮問委員会に、「ただちにコロナワクチン接種を中止することを要求する」という要請についての公式声明を出したということがあったのですが、その方の話を聞く限り、「**社会全体の不妊につながる要因となる可能性がある**」ことを知ったのです。

要請書を提出したのは、ジャンシー・チュン・リンゼイ博士 (Dr. Janci Chunn Lindsay) という30年以上の毒物学などの科学的経験を持つアメリカの女性科学者です。

特筆すべきは、このリンゼイ博士は、「不妊ワクチン開発のプロ」だったようなのです

分子生物学者で毒物学者のジャンシー・チュン・リンゼイ博士は、米CDC (アメリカ疾病予防管理センター)への公式声明で、新型コロナウイルスワクチンの生産と流通を直ちに停止するよう求めた。

リンゼイ博士は、コロナウイルスワクチンは、出産に関しての問題を持ち、血液凝固の懸念があり、および、免疫回避についての問題点を引用し、コロナウイルスワクチンが安全ではないことを示す科学的証拠を予防接種実施諮問委員会に説明した。

2021年4月23日、CDCの予防接種実施諮問委員会の会議が、ジョージア州アトランタで開催された。

この会議での焦点は、Covid ワクチン接種後の血液凝固障害についてだった。

この会議で、ジャンシー・チュン・リンゼイ博士は、CDCに公式声明を述べた。

声明の内容は以下のようなものだった。

1990年代半ば、私は一時的なヒト避妊ワクチンの開発を支援しましたが、その結果、動物実験モデルで、意図しない自己免疫性卵巣破壊と不妊症を引き起こしました。

このようなことは予測されていなかった分析があったにもかかわらずです。

私は、(現在のコロナワクチンは)いくつかの面で安全上の懸念があるため、すべての遺伝子ワクチンを直ちに中止しなければならないと強く感じています。

この問題を徹底的に調査せずに、Covidによる死亡のリスクが極めて低い子どもたち、あるいは出産可能な年齢の子どもたちにこれらのワクチンを接種してはいけません。

そのようなことをすれば、「世代全体が不妊化する」可能性があるのです。

Covidワクチンは血液疾患を引き起こします

第二に、すべての遺伝子治療 (遺伝子コロナワクチンのこと) が凝固障害を引き起こしています。

体の血液凝固システムが損なわれている場合の凝固障害です。

これは1つのワクチン製造メーカーのものに限定されていません。そして、年齢層も幅広いのです。

基礎疾患のない健康な若年成人で凝固障害による死亡が見られます。有害事象報告システムでは、4月9日時点で血液凝固障害に関連する795件の報告があります。(※4月30日時点では、[2,808件](#))

InDeep 2021年6月1日

コロナが、あるいはそのスパイクタンパク質が「もともと生殖不全を引き起こす可能性のあるメカニズムを持っている」ことを知る。米CDC報告では、コロナワクチン副作用報告の80%は女性

脾臓とワクチン：mRNAワクチンが最も攻撃する脾臓の精神科学的な意味は？

投稿日：2021年5月17日

この研究でも、mRNAは、「肝臓」と「脾臓」で最も濃度が高かったことが示されていますが、卵巣と副腎への言及はなかったですので、今回、卵巣と副腎へも、ポリエチレングリコールとmRNAが大量に届けられることを知ります。そして蓄積される。

先ほどの48時間後の数値の多い順となる、**肝臓、脾臓、副腎、卵巣**に非常に濃度が高い状態で留まるようです。なお、さきほどの「高い濃度が示された器官」の中に「副腎」というものがあり、この副腎という器官も、脾臓などと同様にそれほど重視されにくい器官で、ホルモンと関係したいくつかの疾患については聞いたことがあります。ここまでの流れですと、「副腎も生殖と関係あるのでは？」と思い、調べますと、すぐに出てきます。帯広畜産大学のウェブサイトからです。

一人の女性は、ワクチンを接種した後、16日間、出血が続いたと述べたという。そして異様に重く痙攣を伴い、生理のタイミングも不規則になったと述べている。

クランシー博士が最初にツイートしたのは2月24日だったが、それ以来、投稿は多くの人たちの注目を集めている。多くの報告が、不正出血、生理の重さ、生理期間が長引く、周期の乱れ、あるいは、中には生理が止まってしまった女性の報告もあった。

2月に、CDCは、機関のワクチン有害事象報告システム (VAERS) に報告された、ほぼ7,000件の反応を調べた。その中で、有害事象のほぼ80%が女性によって報告されたことを発見し、男性よりも4倍も副作用を報告する可能性が高いことが見出された。

<https://indeep.jp/corona-originally-has-a-mechanism-that-causes-reproductive-failure/>

ワクチンの副反応情報を政府(日本)が隠していた!!

大手メディアでも「コロナ脳批判」、

ABCニュースがフェイクを認めた-AK'sPickup【210603号】

16,222 回視聴・2021/06/04 [Keen-Area News](#) チャンネル登録者数 3.17万人

何回も投稿を削除されながらも表現に工夫を凝らして果敢に投稿を続けていらっしゃいます。



<https://www.youtube.com/watch?v=Y0Er0o1ei8E>

mRNAコロナワクチンの開発者が「私たちは間違いを犯しました。あれは単に毒素です」とメディアに語る。研究者たちがそれを知ったのは「日本から流出した」ファイザー社の動物試験極秘文書より

投稿日：2021年6月2日 更新日：2021年6月3日 InDeep

なお、今回の記事で知ったのですが、前回の記事「[コロナが、あるいはそのスパイクタンパク質が「もともと生殖不全を引き起こす可能性のあるメカニズムを...」](#)」で取り上げましたファイザー社の動物試験での「[薬物動態試験の概要](#)」という文書は、なんと「[日本の当局から流出した](#)」もののようです。基本的に「非公開」の文書だったようです。

前回の記事で取りあげたのは、英語版でしたが、以下のリンクに「日本語版」があります。お読みいただければと思います。データ部分は英語のままですが、説明はすべて日本語で書かれています。わりと「黒くぬりつぶされた部分」がありますが、全体としては読めるものだと思います。

SARS-CoV-2 mRNA Vaccine (BNT162, PF-07302048) 2.6.4 薬物動態試験の概要文

日本政府あるいは日本の保健当局は、この内容を知っていてそれを公開しなかったということは.....おぬしらまさか知っていて.....ということになるのですかね。

カナダのワクチン研究者が「大きな間違い」を認め、スパイクタンパク質は危険な「毒素」だと語る

Vaccine researcher admits 'big mistake,' says spike protein is dangerous 'toxin'

Life Site News 2021/05/31

新しい研究は、COVID-19ワクチン接種からのコロナウイルス・スパイクタンパク質が予期せず血流に入ることを示しているとカナダの癌ワクチン研究者は述べる。

「私たちは大きな間違いを犯しました」

ウイルス免疫学者でカナダ・オンタリオ州ゲルフ大学のバイラム・ブライドル准教授は、インタビューでこのように述べ、「恐ろしいことです」と警告した。

ブライドル准教授は、以下のように言う。

「私たちは、スパイクタンパク質が優れた標的抗原であると考えていましたが、**スパイクタンパク質自体が毒素であり、病原性タンパク質であるとは知らなかったのです。つまり人々にワクチンを接種することで、誤って毒素を接種してしまうことになってしまうのです**」

ワクチン研究者たちは、それまで、mRNA ワクチンが「従来の」ワクチンのように動作すると考えていた。

深刻な症状の原因となるワクチンのスパイクタンパク質は、筋肉の注射部位に留まるものだと想定していた。

ところが、日本から得たファイザーのデータは、スパイクタンパク質が血液に入り、ワクチン接種後、数日間循環し、脾臓、骨髄、肝臓、副腎などの臓器や組織に蓄積することを示していた。そして、卵巣にも非常に高い濃度で蓄積されていた。

「スパイクタンパク質が病原性タンパク質であることは以前から知られていました。それは毒素です。

それが循環に入ると、私たちの体に損傷を与える可能性があります」とブライドル准教授は述べる。

精製されたスパイクタンパク質を血流に注入した動物での実験では、動物が心血管障害を発症し、

さらにスパイクタンパク質が血液脳関門を通過して脳に損傷を与えることも実証されている

心臓と脳への影響

日本から流出したこの動物試験のデータについて、米マサチューセッツ工科大学の上級研究科学者であるステファニー・セネフ氏は以下のように言う。

「ワクチン mRNAの生体内分布を追跡したファイザーのこのリークされた研究結果の内容は驚くべきことではありませんが、その意味は恐ろしいものです」

「ワクチンの成分が、脾臓、卵巣や副腎を含む腺に送達されていることが、今では明らかとなりました。

放出されたスパイクタンパク質は培地中に放出され、最終的に血流に到達して全身に損傷を与えます。

ACE2受容体は心臓と脳で一般的であり、これがスパイクタンパク質が**心血管障害や認知障害を引き起こす仕組みです**」

ワクチン科学者たちはまた、**母親が予防接種を受けた授乳中の乳児が母乳からスパイクタンパク質を取得するリスクがあることをこの日本から流出した極秘データが示唆していると述べた。**

「血液中のタンパク質はすべて母乳に濃縮されるのです」とブライドル准教授は述べる。

このデータは、精巣と卵巣でも高濃度のスパイクタンパク質が見つかったことを示している。

ブライドル准教授は、以下のように疑問を投げかける。

「若い人たちが不妊にでもしたいのでしょうか？」

私たちは、カナダの公衆衛生局に、ブライドル准教授らカナダのワクチン学者たちの懸念への対応を求めたが、カナダ当局からは今のところ回答を得られていない。

mRNAワクチンとはまったく関係ない話ですが、「遺伝子操作されたタンパク質により遠隔操作で脳と行動をコントロールすることに成功した」という2016年のネイチャーの論文をご紹介します
投稿日：2021年5月29日 InDeep

④

<https://indeep.jp/to-control-brain-and-behavior-with-genetically-engineered-proteins/>

早くも高校生や小学生がワクチン接種「早く友達と机並べて弁当を」京都、人口2千人の町

京都新聞社 2021/06/06 19:00

京都府伊根町で64歳以下への新型コロナウイルスワクチンの接種が進んでいる。

対象が12～15歳に拡大されたことを踏まえ、6日からは小学生や高校生も集団接種を受けた。

学校で接種する中学生を除き、6月末までにほぼ希望者全員の接種を終える。

伊根町では、16歳以上の対象者1834人の約8割が接種を希望。

5月30日に基礎疾患を持つ64歳以下の接種を始め、4日には全町民に拡大。

12歳の小学生と15歳の高校生の接種券は2日に配布した。

6日は416人に接種した。宮津天橋高宮津学舎1年の女子生徒(15)は「副反応よりも、コロナに感染しないほうがいい。早く友達と机を並べて弁当を食べられる普通の高校生活に戻ってほしい」と話した。

京都府伊根町の事例が全国に広まって行かないことを祈ります。

コロナワクチンの危険性に関する情報は、6月に入ってから急増していますが、ディープステート(闇の政府)からの攻撃も凄まじく、彼らに支配されている世界の主要メディアや、SNS、ツイッター、フェイスブック、Google、YouTubeなどのインターネット情報網は、コロナワクチンの危険性を報じる情報は見つけ次第削除していています。

しかし、デクラス開示後には、全ての闇が順次明らかになってゆくでしょう。

メディアやSNSも真実を報道し始めることでしょう。

脅迫や暗殺を恐れて沈黙していた非常に多くの人々も、真実を発信し始めることでしょう。

デクラス開示は6月末までには始まると思っています。

2021年 6月6日 松本安生